

あけましておめでとうございます。お子さまにとって、また保護者の皆様にとって笑顔の溢れる一年になりますようお祈り申し上げます。本年もよろしく願いいたします。さて今回は、前回お伝えしていた失敗を恐れず挑戦する力・失敗にくじけない力の「失敗力」を育てる方法についてお伝えいたします。

どうして「失敗させまい」とする環境があるのか

変化が著しい時代社会では「学歴をつけておけばいい」「〇〇をやらせておけばいい」といった安全策が見つからない為、親自身が不安で仕方がない。我が子が「失敗さえしなければ」と安心したい。果たして、それは本当に子どもにとって良い事でしょうか…？「子どもの幸せ」＝「親の安心」…本当でしょうか？

子どもに失敗させまいとするのは親が安心したいだけ。と教育ジャーナリストの中曽根氏は提唱しています。全く失敗経験のないまま大人になってしまった人は少しの困難にぶつかったただけでも挫折してしまいます。困難にぶつかって一度は落ち込んだとしても、そこから学び再び困難に立ち向かうような、たくましさは失敗を乗り越える経験からしか学ぶことができません。

ですが、発達神経症の子どもたちにとって小さな失敗は、なかなか乗り越えられない。泣いてしまうし、癇癪も起こすし…と大変な思いをされた保護者も多いと思います。



ですが、親元に居る時の子どもの失敗なんて、たいしたことではないのです。

失敗したら一緒に次の改善策を考えて「大丈夫」と励ましてあげましょう。ヘリコプターペアレントにならずに上手なお膳立てをしながら手が届くゴールを作りましょう。もし子どもが勇気を出して何かに挑戦しようとしていたら、おおらかに、子どもがどう考え行動をするのかを観察してみましょう。

親が「失敗体験」を「失敗を乗り越えられる経験」と前向きに考える

「親が子どもの安全基地」になっていれば、子どもは「失敗しても良いんだ」と考えることができるのです。もし何か問題が起きても「お父さんとお母さんのところにいけば大丈夫」という安心感が、子どもの挑戦意欲を高めるのです。また、「失敗しても良いんだよ」と、親が子どもに教えることも大切です。例えば子どもがお皿を割ってしまった時、「お父さん（お母さん）も小さい頃にお皿を割ったことがあるよ」と自身の失敗談を話してあげましょう。自信のない子こそ「失敗しても良いんだよ。」と伝えてあげてほしいです。何度も何度も伝えて欲しいです。少しずつでも子どもは、失敗を恐れないようになります。



「失敗した経験」がない子どもは、「失敗を乗り越える経験」もすることができません。

「子どもが失敗したときはチャンス！」と考えられるように前向きに考えたいですね。

また、「親の失敗をシェアする」こと。それは親が成功より失敗を子どもに見せることで

「失敗は通過点」「失敗してもやり直しができる」「失敗からしか学べないことがある」

「ひとつの方法がダメなら、ほかの選択肢や可能性を試せば良い」ということを伝えることができるからです。

失敗経験のある子どもは、「やり抜く力」や「回復力」が育ちます。一方、失敗経験のない子どもは、「やり抜く力」も「回復力」も持っていないので、たったひとつのテストの結果でポキッと心が折れてしまうこともあるのです。そうならないよう子どもには、どんどん親の失敗を見せましょう！ロールモデルである親が失敗を見せることで、子どもは「失敗は悪いことではない」と学ぶのです。失敗と試行錯誤をする経験を積み重ねていくことで、自分の力で考え、乗り越えようとする力がついていきます。

そうすることで子どもの頃の失敗体験が社会に出てからも役に立つことを知るのです。

かなででも、「自分で考えて行動する」ことや、「失敗しても大丈夫」だということ、「失敗を乗り越え、そして次へ進める力」を育てていけるようなかかわりや言葉かけを心がけています。